

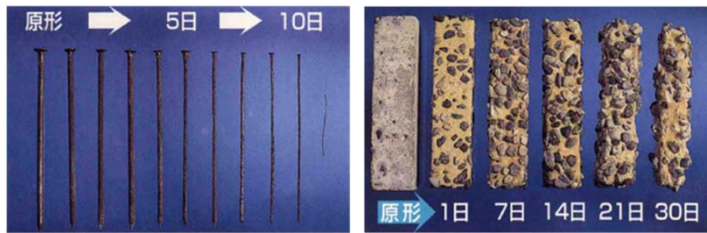
社会生活、経済活動に寄与する 中和事業

品木ダムは、強酸性の水を中和する際に発生する中和生成物をためるためのダムです。

品木ダム(群馬県)

吾妻川の強い酸性の水は、鉄やコンクリートを溶かすほどで「死の川」と呼ばれていました。

昭和39年に酸性河川を中和するため品木ダムをはじめとする中和施設が完成、運転開始から現在まで休むことなく稼働しています。



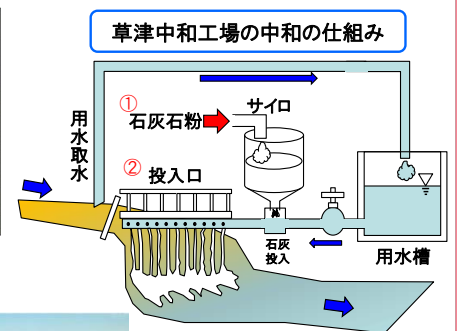
酸性により5寸ギが10日でほとんど原型なくなる



中和前の吾妻川の水につけたコンクリート



石灰石粉を投入し酸性河川を中和(湯川)



中和事業により、下流では魚類等が生息し、コンクリート製の構造物の築造、土壌中和用肥料を使用しない農業が可能に。



中和事業以前の護岸表面が劣化した護岸コンクリート



現在の護岸コンクリート



位置図



中和事業以前は、田畑に土壌中和用肥料を散布していました

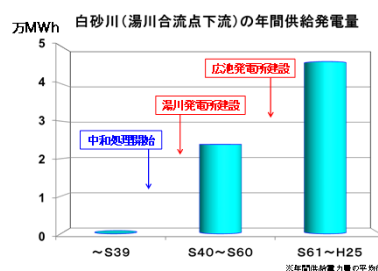


湯川、谷沢川、大沢川は品木ダムに流入

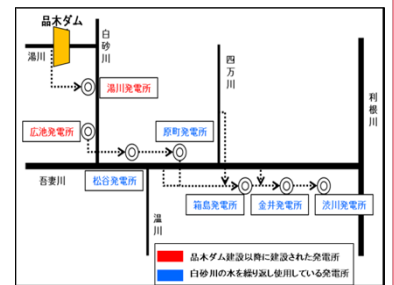


石灰石粉を使用

強い酸性水が中和され、白砂川(湯川合流点下流)に発電所の建設が可能に。



中和処理以降に発電所が建設され発電を供給(主に群馬県内に電力を供給)



中和された水は吾妻川の発電所で繰り返し利用(7発電所の供給電力量は約1.8万世帯分に相当)